

第1回文京区アカデミー推進計画策定協議会

日時：平成21年11月30日（月）

午後6：30～8：30

場所：文京シビックセンター24階

区議会第2委員会室

文京区アカデミー推進部アカデミー推進課

第1回文京区アカデミー推進計画策定協議会 会議録

(敬称略)

「委員」

会 長	山崎 一穎
副会長	水越 伸
委 員	野口 洋平
委 員	久松 佳彰
委 員	伊藤 明子
委 員	上田 武司
委 員	長尾 栄一
委 員	和田 懋
委 員	内野 篤
委 員	武智 弘英
委 員	清水 智博
委 員	本松 邦廣
委 員	佐藤 成臣
委 員	榊田 慶輝
委 員	田辺 武之
委 員	中川 澄子
委 員	檜崎 華祥
委 員	白井 圭子
委 員	奥田 匠
委 員	佃 吉一
委 員	森岡 隆
委 員	市川 正明
委 員	大石 坦
委 員	熊田 美穂子
委 員	黒木 美芳
委 員	國分 眞史
委 員	柳澤 愈
委 員	山本 重子
委 員	渡辺 みゆき
委 員	高橋 豊
委 員	徳田 隆

「幹事」

企画政策部企画課長	小野澤 勝美
アカデミー推進部アカデミー推進課長	毛利 俊光
アカデミー推進部観光・国際担当課長	小野 光幸
アカデミー推進部スポーツ振興課長	太田 治

○毛利課長：大変お待たせしました。本日はお忙しいところ平成 21 年度第 1 回文京区アカデミー推進計画策定協議会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。会議の進行は会長が行うことになっておりますが、現段階では会長が決まっておりません。そのため僭越ではございますが、暫時、私アカデミー推進課長の毛利が司会ということで会を進めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、本日の出席状況であります。青木和浩委員から欠席のご連絡をいただいております。その他まだ 5 人の方がお見えになっていない状況でございます。

次にお手元の資料の確認をさせていただきます。本日、座席表、それから策定協議会の次第からはじまります 17 ページのホッチキス留めの資料、それから文京区生涯学習推進基本構想、文京区生涯学習推進計画、文京アカデミー構想、新たなる基本構想骨子の抜粋です。また、実態調査に関するアンケートの意見シート、最後に観光ビジョンの概要版、以上が資料でございます。配布漏れ等がございましたら事務局にお声掛けください。よろしくお願いいたします。

それでは、本日のお手元の次第に沿って進めてまいりたいと思います。早速進めさせていただきます。まず、委嘱式でございます。これから委員の皆様へ、成澤区長からお一人ずつ委嘱状をお渡しいたします。委員のお名前をお呼びいたしますので、自席にてご起立いただき、委嘱状をお受け取りいただきたいと思っております。それではよろしくお願いいたします。まず初めに山崎一穎さま。

○成澤区長：委嘱状、山崎一穎さま、文京区アカデミー推進計画策定協議会委員を委嘱します。平成 21 年 11 月 30 日、文京アカデミー推進本部長、文京区長、成澤廣修。どうぞよろしくお願いいたします。

○毛利課長：続きまして、水越伸さま。

○成澤区長：委嘱状、水越伸さま。どうぞよろしくお願いいたします。

○毛利課長：続きまして、野口洋平さま。

○成澤区長：委嘱状、野口洋平さま。どうぞよろしくお願いいたします。

○毛利課長：続きまして、久松佳彰さま。

○成澤区長：委嘱状、久松佳彰さま。どうぞよろしくお願いいたします。

○毛利課長：続きまして、伊藤明子さま。

○成澤区長：委嘱状、伊藤明子さま。どうぞよろしくお願いいたします。

○毛利課長：続きまして、上田武司さま。

○成澤区長：委嘱状、上田武司さま。どうぞよろしくお願いいたします。

○毛利課長：続きまして、長尾栄一さま。

○成澤区長：委嘱状、長尾栄一さま。どうぞよろしくお願いいたします。

○毛利課長：続きまして、和田懋さま。

○成澤区長：委嘱状、和田懋さま。どうぞよろしくお願いいたします。

- 毛利課長：続きまして、内野篤さま。
- 成澤区長：委嘱状、内野篤さま。どうぞよろしく願いいたします。
- 毛利課長：続きまして、武智弘英さま。
- 成澤区長：委嘱状、武智弘英さま。どうぞよろしく願いいたします。
- 毛利課長：続きまして、清水智博さま。
- 成澤区長：委嘱状、清水智博さま。どうぞよろしく願いいたします。
- 毛利課長：続きまして、佐藤成臣さま。
- 成澤区長：委嘱状、佐藤成臣さま。どうぞよろしく願いいたします。
- 毛利課長：続きまして、榊田慶輝さま。
- 成澤区長：委嘱状、榊田慶輝さま。どうぞよろしく願いいたします。
- 毛利課長：続きまして、田辺武之さま。
- 成澤区長：委嘱状、田辺武之さま。どうぞよろしく願いいたします。
- 毛利課長：続きまして、中川澄子さま。
- 成澤区長：委嘱状、中川澄子さま。どうぞよろしく願いいたします。
- 毛利課長：続きまして、檜崎華祥さま。
- 成澤区長：委嘱状、檜崎華祥さま。どうぞよろしく願いいたします。
- 毛利課長：続きまして、白井圭子さま。
- 成澤区長：委嘱状、白井圭子さま。どうぞよろしく願いいたします。
- 毛利課長：続きまして、奥田匠さま。
- 成澤区長：委嘱状、奥田匠さま。どうぞよろしく願いいたします。
- 毛利課長：続きまして、佃吉一さま。
- 成澤区長：委嘱状、佃吉一さま。どうぞよろしく願いいたします。
- 毛利課長：続きまして、森岡隆さま。
- 成澤区長：委嘱状、森岡隆さま。どうぞよろしく願いいたします。

○毛利課長：続きまして、市川正明さま。

○成澤区長：委嘱状、市川正明さま。どうぞよろしく願いいたします。

○毛利課長：続きまして、大石坦さま。

○成澤区長：委嘱状、大石坦さま。どうぞよろしく願いいたします。

○毛利課長：続きまして、熊田美穂子さま。

○成澤区長：委嘱状、熊田美穂子さま。どうぞよろしく願いいたします。

○毛利課長：続きまして、黒木美芳さま。

○成澤区長：委嘱状、黒木美芳さま。どうぞよろしく願いいたします。

○毛利課長：続きまして、國分眞史さま。

○成澤区長：委嘱状、國分眞史さま。どうぞよろしく願いいたします。

○毛利課長：続きまして、柳澤愈さま。

○成澤区長：委嘱状、柳澤愈さま。どうぞよろしく願いいたします。

○毛利課長：続きまして、山本重子さま。

○成澤区長：委嘱状、山本重子さま。どうぞよろしく願いいたします。

○毛利課長：続きまして、渡辺みゆきさま。

○成澤区長：委嘱状、渡辺みゆきさま。どうぞよろしく願いいたします。

○毛利課長：続きまして、高橋豊さま。

○成澤区長：委嘱状、高橋豊さま。どうぞよろしく願いいたします。

○毛利課長：続きまして、本松邦廣さま。

○成澤区長：委嘱状、本松邦廣さま。文京区アカデミー推進計画策定協議会委員を委嘱します。平成 21 年 11 月 30 日、文京アカデミー推進本部長、文京区長、成澤廣修。どうぞよろしく願いいたします。

○毛利課長：ありがとうございます。それでは、続きまして、成澤区長よりご挨拶をお願いしたいと存じます。

○成澤区長：みなさん、こんばんは。区長の成澤でございます。文京区アカデミー推進計画策定協議会の第 1 回を開催しましたところ、皆様ご多用中にもかかわらずご参集いただきまして、心から感謝を申し上げます。文京アカデミー構想の効果的な推進をはかるために平成 18 年 8 月に設置いたしましたアカデミー推進協議会を、この度改定をいたしまして、区の新たなアカデミー推進の指針となる生涯学習

推進計画およびアカデミー構想を含めた生涯学習、スポーツ振興、文化芸術、観光、国際という幅広い分野すべてを網羅した計画、施策、課題等について検討、ご協議をいただく場として、今回「文京区アカデミー推進計画策定協議会」を設置したところでございます。皆様方のご討議によりまして、アカデミー推進計画というものをこの協議会の場でまとめていただきたいというのが、私からのお願いでございます。

スケジュールとしましては、今回、第1回の11月にこの協議会を設置いたしまして、来年に入りましてから実際調査等を行ったうえで、2月から7月の約半年間をかけまして、分野別の分科会を開催し、素案の作成を皆様にご検討いただくことになっております。その後、パブリック・コメントを実施して23年の3月には新しいアカデミー推進計画の策定を目指したいというふうに考えている次第でございます。委員は37名ということで大変多くの委員の皆様にご協力をいただきますが、それぞれの分野にわたっての専門的な活動を背景にしたご発言、そして学識経験者の先生方には分科会のご指導と大変お世話になりますが、皆様方のお力によりまして本区のアカデミー構想が新たなステージに到達をして、アカデミー推進計画を作ることができるようにお力添えをお願い申し上げまして、第1回に当たりましてのご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

○毛利課長：ありがとうございます。なお、区長はこれから別の予定が入っておりますので、これにて退席させていただくことをご了解いただきたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

(区長退席)

○毛利課長：次に委員の方々のご紹介ですが、本日初めての顔合わせということもありますので、皆様には簡単な自己紹介をお願いしたいと思います。再度私のほうからお名前をお呼びいたしますので、お手数ですがご起立いただきまして、団体推薦の方は所属とお名前を発言いただければ幸いです。これで顔を覚えていただきたいと考えております。また、マイクの使用方法ですけれども、ボタンを押しますとマイクのランプが点灯しますのでご発言ください。必ずご自分の発言が終わった後はマイクのボタンを押して消してください。なお、マイクの付いていない席がございます。そちらにつきましては事務局がマイクをお持ちいたしますので、そちらのマイクをお使い願いたいと思います。それでは、資料の第2号をお開きください。こちらの委員名簿に従いまして、この順にお名前を読み上げますので、ご挨拶をお願いいたします。名簿順にまいります。山崎委員、お願いたします。

○山崎委員：山崎一穎と申します。今、跡見学園の理事長兼中学校・高等学校の校長を務めております。文京区で言えば、森鷗外記念会の会長を務めております。よろしくお願いたします。

○毛利課長：続きまして、水越委員お願いたします。

○水越委員：東京大学の水越伸と申します。よろしくお願いたします。慣れない仕事なのですが、面白い計画ができるように頑張りたいと思いますので、どうかよろしくお願いたします。

○毛利課長：続きまして、野口委員よろしくお願いたします。

○野口委員：杏林大学の野口と申します。よろしくお願いたします。大学で観光、とくに旅行会社の経営につきまして教えております。よろしくお願いたします。

○毛利課長：続きまして、久松委員お願いたします。

○久松委員：東洋大学国際地域学部、久松と申します。私の属する国際地域学部は今年4月にこちらに移ってまいりました。よろしくお願いたします。

○**毛利課長**：以上ご紹介いただきました4人の先生方と、本日欠席しておりますが、青木委員の5人の学識経験者の先生方によりまして、後ほどご説明いたしますが分科会を設置いたします、それぞれの座長を務めていただく先生方になりますのでよろしくお願いいたします。では、引き続きまして団体推薦の委員の方からご紹介いたします。まず、伊藤委員お願いいたします。

○**伊藤委員**：文京区男女平等センターの自主運営をしております文京区女性団体連絡会からまいりました伊藤でございます。よろしくお願いいたします。

○**毛利課長**：続きまして、上田委員お願いします。

○**上田委員**：文京区商店街連合会の副会長を務めております上田と申します。アカデミーを含めて我々の商店街はいかに人を集め、それで営業をいかに活性化していくか、それがテーマとして今回参加しております。よろしくお願いいたします。

○**毛利課長**：続きまして、名簿順で長尾委員、お願いいたします。

○**長尾委員**：長尾栄一でございます。文京区心身障害者団体連合会の代表でまいりました。私自身、視覚障害者でございますのでよろしくお願いいたしますと思っておりますし、私、このアカデミーについて大変興味を持ち、また、今までも講座その他でお世話になってきたもので、今後ともアカデミーを大いに利用したいというふうに、むしろ利用者の代表のようなつもりでまいりました。よろしくお願いいたします。

○**毛利課長**：続きまして、和田委員お願いいたします。

○**和田委員**：文京区高齢者クラブ連合会の広報関係をしております和田でございます。文京区で一番会員数の後楽クラブ、いま134名おりますが、その会長でもございます。私は区民大学、あるいは高齢者大学の卒業生でございまして、区民大学ではいろんな講座を常に3科目ぐらいずつやっておりましたが、この2、3年はどうしてもいろんなことでバッティングしてやれませんで、今後はいろんな機会を通して講座に参加したいと思っております。よろしくお願いいたします。

○**毛利課長**：続きまして、内野委員お願いします。

○**内野委員**：内野でございます。文京区民生・児童委員協議会からまいりました。私は大塚地区の委員ということでやらせていただいています。よろしくお願いいたします。

○**毛利課長**：続きまして、武智委員お願いいたします。

○**武智委員**：文京区青少年委員会の会長を務めております武智と申します。4期8年目になりました。団体の代表として、また一区民としてこの協議会に参加をさせていただきまして、よりよい議論ができればと思っております。よろしくお願いいたします。

○**毛利課長**：続きまして、清水委員お願いします。

○**清水委員**：区立小学校PTA連合会の会長を務めさせていただいております清水と申します。会議は2年間と長い会議だと思っておりますが、どうぞ最後までよろしくお願いいたします。

○**毛利課長**：続きまして、本松委員お願いいたします。

○**本松委員**：みなさん、こんばんは。文京区立中学校PTA連合会の本松邦廣と申します。よろしくお願

いたします。以上です。

○**毛利課長**：続きまして、佐藤委員お願いいたします。

○**佐藤委員**：アカデミー文京の学習推進委員会委員長をやっております佐藤と申します。よろしくお願いいたします。学習推進委員会のほうは先ほどお話がありました区民大学を施策するというようなところを主に担当しております、私は委員長になって今年でちょうど10年目になると思います。本業は会議のコンサルタントをやっております。よろしくお願いいたします。

○**毛利課長**：続きまして、榊田委員お願いいたします。

○**榊田委員**：榊田慶輝と申します。文京アカデミア講座の運営のサポートをやっております。よろしくお願いいたします。

○**毛利課長**：続きまして、田辺委員お願いします。

○**田辺委員**：文京区体育協会副理事長をやっております田辺です。よろしくどうぞお願いします。担当はボウリング連盟から体協に加盟しております。よろしくどうぞお願いいたします。

○**毛利課長**：続きまして、中川委員お願いします。

○**中川委員**：文京美術会の中川澄子と申します。洋画家です。今年は日展の審査員を務めました。どうぞよろしくお願いいたします。

○**毛利課長**：続きまして、榑崎委員お願いいたします。

○**榑崎委員**：文京書道連盟からまいりました榑崎でございます。書道を通しましての展覧会など、いろいろ文京区の方々とともにさせていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

○**毛利課長**：続きまして、白井委員お願いいたします。

○**白井委員**：文京区観光協会の副会長をやらせていただいております白井圭子と申します。文京区の観光を活性化させたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○**毛利課長**：続きまして、奥田委員お願いいたします。

○**奥田委員**：春日に事務所がございます東京観光財団の奥田でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○**毛利課長**：続きまして、佃委員お願いいたします。

○**佃委員**：財団法人アジア学生文化協会の佃と申します。私どもは留学生受け入れの推進、宿舎、日本語等々の事業を行っておりますので、交流等で文京区とも推進していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○**毛利課長**：続きまして、森岡委員お願いいたします。

○**森岡委員**：文京キーウィクラブの森岡と申します。名前のとおりキーウィというクラブ、みなさんご

存じだと思いますが、キーウィフルーツ、キーウィバード、ニュージーランドとの長い付き合いをしております。文京区のみなさんとニュージーランドと交流ができればいいなというように思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○毛利課長：続きまして、市川委員お願いいたします。

○市川委員：区民の公募で参加してまいりました市川正明と申します。私は文京区に住んでおりますけれども、学校、小学校から大学まで文京区で過ごさせていただきました。応募は生涯学習で応募したのですが、バラバラとめくると観光のほうになっておりました。観光でもいと面接のときに言った覚えもありますのでこうなったと思っております。よろしくお願いいたします。

○毛利課長：続きまして、大石委員お願いいたします。

○大石委員：公募で委員になりました大石といいます。都立障害教育学校退職校長会に属しております。よろしくお願いいたします。

○毛利課長：続きまして、熊田委員お願いいたします。

○熊田委員：区内で行政書士をしております熊田美穂子と申します。生涯学習関係ではアカデミアサポーターを今年から始めておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○毛利課長：続きまして、黒木委員お願いいたします。

○黒木委員：黒木でございます。区民の公募で応募しましたけれども、自主学習サークルをやっておりまして、同時に生涯学習サークル連絡会というのがありまして、そこを代表して現場の面から意見言いたいなど、思って参加しております。よろしくお願いいたします。

○毛利課長：続きまして、國分委員お願いいたします。

○國分委員：区民の公募として応募いたしました國分でございます。よろしくお願いいたします。私は文の京地域文化インタープリターという資格で、今活動しております。インタープリターは文京区の地域文化、歴史を広めたいということで今活動していきまして、47名今参加しております。よろしくお願いいたします。

○毛利課長：続きまして、柳澤委員お願いいたします。

○柳澤委員：柳澤でございます。私は地域文化、文の京インタープリター、それから生涯学習関係で学習推進委員、それからサポーターをしております。趣味の会としましては、文京区郷土史研究会の事務局長をやらせていただいています。以上です。よろしくお願いいたします。

○毛利課長：続きまして、山本委員お願いします。

○山本委員：区民の公募で応募させていただきました山本重子と申します。よろしくお願いいたします。インタープリター、それから生涯学習司、サポーターなどやらせていただいております。また、現在英語観光ボランティアを勉強させていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

○毛利課長：続きまして、渡辺委員お願いいたします。

○**渡辺委員**：渡辺みゆきと申します。よろしくお願ひいたします。本年度生涯学習司の認定をいただきまして、あとは区内でサークル活動の講師などをやらせていただいています。生涯学習のほうでお役に立てればと思います。よろしくお願ひいたします。

○**毛利課長**：続きまして、高橋委員お願ひします。

○**高橋委員**：こんばんは。文京シビックホール、アカデミー文京、地域アカデミーの指定管理者をしております財団法人文京アカデミー管理部長の高橋です。よろしくお願ひいたします。

○**毛利課長**：続きまして、徳田委員です。

○**徳田部長**：みなさん、こんばんは。文京区のアカデミー推進部の部長を務めてございます、徳田隆と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

○**毛利課長**：ありがとうございます。それでは引き続きまして、幹事をご紹介いたします。初めに小野澤企画課長でございます。

○**小野澤課長**：企画課長の小野澤と申します。ひと言だけですが、ただいまこの会議はいわゆる分野別の構想を作っていくということなのですが、文京区では、現在今後 10 年間の総合計画、基本構想を作っております、あわせてこの会が活発にご議論いただいて、10 年後の文京区の文化振興や観光や国際交流、こういった夢のある絵を一緒に描けていけたらいいのかなというふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

○**毛利課長**：続きまして、小野観光・国際担当課長です。

○**小野課長**：観光・国際担当課長の小野と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

○**毛利課長**：続きまして、太田スポーツ振興課長です。

○**太田課長**：スポーツ振興課長の太田と申します。今年度、今年の 4 月からこの職におります。昨年度は国体準備等を担当、その前の年なのですがアカデミー文京にもおりましたので、お役に立てればと思います。よろしくお願ひいたします。

○**毛利課長**：最後になりましたが、私がアカデミー推進課長の毛利と申します。こちらの事務局を担当させていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。続きまして、初回ですので事務局スタッフをご紹介したいと思います。まず初めにアカデミー推進係長の内藤でございます。

○**内藤係長**：内藤でございます。よろしくお願ひいたします。

○**毛利課長**：続きまして、文化事業係長の林でございます。

○**林課長**：文化事業係長の林です。よろしくお願ひします。

○**毛利課長**：計画担当の佐藤でございます。

○**佐藤係長**：計画担当の佐藤です。よろしくお願ひいたします。

○**毛利課長**：続きまして、観光担当の萩原です。

○萩原係長：観光を担当しております萩原と申します。どうぞお願いいたします。

○毛利課長：続きまして、国際交流担当の橋本です。

○橋本係長：国際交流担当の橋本です。どうぞよろしくお願いいたします。

○毛利課長：続きまして、スポーツ振興係長の石井でございます。

○石井係長：スポーツ振興課スポーツ振興係長の石井でございます。スポーツ振興分科会のほうの事務局担当をしております。どうぞよろしくお願いいたします。

○毛利課長：続きまして、国体準備等担当の田村でございます。

○田村係長：田村でございます。よろしくお願いいたします。

○毛利課長：次にコンサルタントとして本件のお手伝いをさせていただいております株式会社富士通総研から稲永さんです。

○富士通総研・稲永：富士通総研の稲永と申します。特定社会保険労務士・社会福祉士でございます。よろしくお願ひします。

○毛利課長：同じく、瀬戸さんです。

○富士通総研・瀬戸：同じく富士通総研の瀬戸と申します。実は私も文京区民でして、今、千駄木のほうに住んでおります。今回はお手伝いさせていただく立場としてここにおりますので、また皆さんと一緒に検討できればと思っております。よろしくお願ひします。

○毛利課長：ありがとうございます。続きまして、次第に従いまして会長の互選選出ということで設置要綱の第5条第2項によりまして、会長を委員の互選で選任することとなっております。具体的に誰にお願いするかご提案願ひたいと存じます。いかがでしょうか、発言のある方。佐藤委員。

○佐藤委員：様々なご経験やご見識があるということですので、跡見学園理事長の山崎先生にお願いしたいと思うのですが、いかがでしょうか。

○毛利課長：今、山崎委員を会長にとのご発言がありました。そのように取り計らいたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なし、拍手)

○毛利課長：それでは、学校法人跡見学園理事長の山崎委員に会長をお願いしたいと存じます。改めて拍手をお願いいたします。(拍手)では、以後の進行を山崎会長にお願いしたいと思ひます。ひと言ご挨拶をお願いいたします。

○山崎会長：皆さんの推挙によって会長職を引き受けることにいたしました。私自身は実はこの3月まで跡見学園の文学部の教師をしておりました。大学を出てからすぐ夜学の教師を8年やりまして、それから大学に勤めたのですが、大学で39年間勤めていて、大学教育には賞味期限があるっていうことをずっと言い続けてきた一人なのです。そういうことになりますと、生涯学習というものがどうしても重要になってくる。かつては大学が最終学歴だったはずですが、私は長くて15年から20年、それが賞味

期限だろうと、卒業生を見ているとそういう気がします。ですから、私自身も学び直さなければならぬという思いで、実は文京区に関わってまいりました。ひとつよろしくお願ひしたいと思います。では座らせていただきます。規程によりまして、副会長という形で、会長に不都合なことがあった場合に副会長の方にお願ひしなければなりませんので、そこに規程がございます。その規程の設置要綱の第5条の4項に、副会長を置くことになっておりまして、会長が指名するということになっておりますので、会長としては水越先生に副会長をお願ひしたいと思います。よろしかったら拍手でひとつ。

(異議なし、拍手)

○山崎会長：先生、ひと言、ご挨拶をお願ひいたします。

○水越副会長：先ほど申し上げませんでしたでしたが、私、専門はメディア論というものでして、手紙や書物からインターネットや携帯まで人がコミュニケーションをするための仲立ちになるメディアについて考えています。技術的なことをやっているのではなくて文化的なことをやっています、そのメディアの周りにどういうふうになんが集まったり、コミュニティーを作ったり、あるいは芸術表現みたいなことをしたりするかということを考えています。例えば、最近携帯というのは子どもに持たせてはいけないうような形でいろいろ言われているのですけれども、使い方によっては携帯で映画ができた、連歌のようなものができたり、そのようなプログラムを自分たちで作っていく、文京区でもやらせていただいたことがあるのですが、日本の各地で地域の中でそのような活動を行っています。今回この副会長というのは会長を補佐し、会長に事故のあるときにはと書いてあるのですけど、会長の足を引っ張らないようにしてやりたいと思いますので、みなさんどうかよろしくお願ひいたします。(拍手)

○山崎会長：それでは議事に入りたいと思います。まず、第1ですが協議会の運営についてということで、ひとつ事務局のほうからお願ひします。

○毛利課長：それでは本日の資料の、委員の皆様は席上配布しておりますそれに順次従いましてご説明いたします。まず、資料の4ページをお開きください。こちらが協議会の運営についての説明となります。資料第3号になります。こちらで協議会を開設するにあたりまして協議会の運営についての確認しておきたいと思う事項でございます。初めに代理出席ができますのが(1)にあります団体推薦の方のみとさせていただきます。また(2)の委員の欠員につきましては原則補充をしないということになっております。ただ後段にありますとおり欠員が生じた時期によりまして、協議会と協議をさせていただく場合もございます。

続きまして、協議会の公開につきましてですが、協議会は広く区民の意見を求める必要があるところから原則として公開といたします。区民等の傍聴を含め、協議会の記録を公表することといたします。従いまして協議会の開催の区民周知も約半月ほど前にホームページ等に掲載させていただきます。続きまして2の(3)をご覧ください。傍聴者の定員及び受付方法についてであります、原則25名ということで先着順とさせていただきます。次のページに移りまして(4)傍聴者の禁止事項ということで、会議に支障があります4項目を禁止事項といたしております。ご覧ください。続きまして(5)の記載のとおり撮影・録音等は認めないということにさせていただきます。ただしあらかじめ会長の許可を受けた場合はこの限りではありません。続きまして(6)の協議会の資料の取り扱いになりますが、傍聴者にも配布いたします。また後段にありますとおり、協議会終了後速やかにこちらのシビックセンター2階にあります行政情報センターに配架させていただきます。可能な限りホームページにも掲載する予定でございます。続きまして(7)の協議会の記録につきましてですが、発言者も含めまして全文記録方式となります。概ね1カ月以内に協議会の資料とともに行政情報センターに資料として配架することにさせていただきます。

続きましてその他といたしまして、特に必要があれば協議会で定めるということで結んでおります。

続きまして資料の6ページをお開きください。こちら資料第4号でございます。協議会の体制を図にしたものでございます。計画策定の審議・決定はアカデミー推進本部で行うということ。審議・決定に

あたりまして、文京区アカデミー推進計画策定、こちらの会議ですね、に提案し、協議会は本部に意見を行うことといたします。計画策定に際しましては5つの分野の分科会を協議会のもとに設置いたします。当該計画につきましては、協議会から指定された事項を分野別に検討し、その結果を協議会に報告することといたします。分科会の構成につきましては次ページの資料第5号、分科会の名簿をご覧ください。座長に各分野を専門にしております学識経験者の先生方をお願いいたしまして分科会を取りまとめていただくこととなります。会員は団体推薦、関係団体、区民委員、行政、各8名の構成になります。区民委員につきましては、申し込み時に希望分科会をお伺いいたしましたが、申し込みの状況により必ずしも希望どおりになってない場合がございます。それから団体推薦委員につきましても、定数の関係がございますので、事務局で振り分けさせていただきました。なお、他の分科会への参加についてでございますが、例えば生涯学習分科会のメンバーの方がスポーツ振興分科会へ参加したいというご希望があれば、一応他の分科会への参加につきましても出席いただくことは可能でございます。ただし謝礼等につきましては所属している分科会にご出席いただいた場合に限らせていただきたいと思います。ご理解、ご了承願いたいと思っております。なお、分科会の会議の傍聴、会議録につきましては本協議会の運営に準じまして運営を行いたいと思っております。以上が運営につきましての説明でございます。よろしく願いいたします。

○山崎会長：只今のご説明について、質疑を行いたいと思います。まず資料について質問がございましょうか。あるいはご意見をお願いします。

○市川委員：事務局の方のお名前を失念してしまったのですが、分科会の運営は、簡単に言えば推進計画策定協議会の運営に準ずるといふふうにおっしゃったと思うのですが、ということは議事録も公開されるということですか。

○毛利課長：一応、予定としては議事録も作りまして、要旨で公開する予定でございます。

○市川委員：要旨ということは配架するということですか。どこかのところに。

○毛利課長：そうですね。配架もしくはホームページ等への掲載という形になります。

○市川委員：分かりました。

○山崎会長：ただいまのご質問は分科会における議事録のあり様です。これは一応公開するということですね。他にご質問、ご意見ございましょうか。それではこの問題は今の原案の説明通りにしていきたいと思えます。次に、具体的な会議の進め方という形になろうと思えますけれども、これだけ大勢の皆様方のご意見を集約するために、今まで文京区が、先ほど区長さんもおっしゃっていたように、ひとつ前の段階でその推進計画を進めてきた経緯がございます。そういう経緯についてご説明をいただいたうえで、皆様方のご意見を伺えればと思っておりますので、事務局から今までのことを概括してくれますか。

○毛利課長：それでは、お手元の資料の9ページをお開きください。資料第6号になります。こちらに文京区アカデミー推進計画の策定についてという資料がございます。まず予備知識といたしまして、これまで文京区における生涯学習の推進やアカデミー構想の推進状況をご理解していただくための説明資料となっております。入門編ともいえるべきもので、今日はあくまで概略をつかんでいただきたいと思います趣旨でございます。今後は協議会や分科会の中で各論的な詳しい内容、詳細をつかんでいただくことを考えております。それではちょっとお手元の資料で、雑駁ではございますがご説明させていただきます。まず、文京区アカデミー推進計画の策定ということで、まず1としまして、文京区における生涯学習の推進ということになります。これは文京区では平成4年の3月に文京区生涯学習推進基本構想というものをまとめました。この基本構想に基づきまして、推進計画の策定について検討を開始し、

平成6年3月に文京区生涯学習推進計画を策定したものであります。その後、平成12年3月および平成17年2月にそれぞれ第一次改定、第二次改定を行ったところであります。その17年2月の第二次改定ですね、生涯学習推進計画の第二次改定のあとに文京アカデミー構想というのを平成17年11月に策定いたしました。そして現在に至っているわけでございます。

下の文京区の生涯学習の歴史というところをご覧ください。こちらが概括的な歴史になっております。最近の動きとしましては、一番下のほうの平成21年になりまして4月には区役所の中にアカデミー推進部を発足いたしました。そして、今回の11月のアカデミー推進計画策定協議会の設置という運びになったわけでございます。続きまして10ページをお開きください。こちらは2としまして文京区の生涯学習の推進についてのくだりになります。ご案内のとおり社会環境の変化等に対応した形で生涯学習の推進を行っております。当時は学校完全週5日制に伴う子どもたちの活動の場や機会の確保とか、それから社会人の受け入れの体制の整備とか、IT化等々で社会環境が大きく変化したと。こういった状況の中で文京区でも文京区の生涯学習推進計画の第二次改定が示されました。その中で「区内まるごとキャンパス」、聞いたこともある方もいらっしゃると思うのですが、というキャッチフレーズのもとにこれを実現するために最先端の、生涯学習だけでなく、スポーツ、文化、芸術を含めた区民との協働・協治という考え方を展開するというので、「生涯学習都市・文京」を目指して築いていくという文京アカデミー構想というのを策定いたしました。

これから以下が(2)のところは文京アカデミー構想の骨子になるこの構想を実現するための方策として考えた3つのネットワーク等が例示されております。例えば①の学びのネットワーク、②の教育・文化施設のネットワーク、③の人づくりネットワーク。その中で例えば学びのネットワークですと、大学、企業と連携し、多様な学習講座を拡大していくということで、黒丸のところは事業のひとつの例示です、例示という形で出しております。これをご覧くださいいただければと思いますが、同じような形でそれぞれ例示が出ております。

続きまして3ページにまいりますと、こちらはこのアカデミー構想のネットワークの進捗状況ですね。どんな進捗をしているかという、これは概括的なものですが、ちょっと参考程度にご覧になっていただきたいと思っております。例えば、学びのネットワークの事業の進捗状況としましては、この中で例えば資格取得キャリアアップ講座というものを実績として掲げております。その中身は大学の講座による資格取得講座ですね。そういったものを文京区民の受講枠を確保しまして、大学と連携した講座を展開してきたといった形の概括的な内容です。それから、②のe-ネットラーニングの活用講座とか、こういったもの、③は会議体ですね。生涯学習・スポーツ会議という会議体がございます、その開催実績とか、そういった進捗状況になっております。(2)がもう一つのネットワーク、2番目のネットワークの教育・文化資産のネットワークの進捗状況であります。これはご案内のとおり区内には多くの博物館とか美術館とか、そういったものが存在しております。そういったものと連携を深めて共同の企画とかPR等を行ってきたというところです。みなさんもお聞きおよびあるかと思うのですが、文京ミュージアムネットといったような名称で、今34施設の区内の博物館、美術館と文化施設のネットワークが構築されております。加盟団体が34施設になっております。そういった形の実績が書いてあります。

続きまして4ページにまいりますと、スポーツ関係ですね。こちらも区内は野球、サッカー、柔道などの拠点施設を抱えているということで、各種スポーツイベントを行っております、この中で例えばBヴィレッジというのは文京中学サッカーヴィレッジというものの略称になっております。そういったものとか、最後のネットワーク、人づくりネットワークの事業進捗ということでは、人材育成講座などが設けられております。こちらは今回の委員の方にも、多数参加していただいております、生涯学習司講座とか、地域・文化インタープリター講座とか、アカデミアサポーター養成講座等々、活発な講座展開を行っております。そういったものがひとつのご案内ですけど、私ども文京アカデミー構想の中のネットワークのひとつの事業例でございます。ちょっと参考程度にお示ししました。以上でございます。

○山崎会長：ありがとうございました。だいたい9ページから、資料6号の推進計画の策定についてということで、文京区の生涯学習の推進の略歴みたいなものをずっと今ご説明いただいたわけです。ちょうどいまからそうですね、40分ぐらい時間を取りまして、ひとつ自由に、これを踏まえて、あるいはここでのまず気が付いたこと、あるいは皆様方が考えておられること、自由に少し発言をいただくと、

会議の方向、あるいは問題点が見えてくるかというふうに思います。おそらくこれだけの分野の人たちが集まっておりますから、自分の分野では気が付いていても他の分野ではなかなか気が付かないということがおありだろうと思いますので、40分というのは長いようではございますけれども、これだけの出席の人数ですから一人がご発言になっても1分程度しかないということになりますけれども、とにかくできるだけ多くの方に発言をいただければというふうに思っております。なお、今記録を取っている関係で、発言をする際にお名前を最初に言っていただいで発言をしてください。

とくに前の会のところから関わったところからいうと、今の9ページの歴史の生涯学習というふうにならずと名称がきていたものがアカデミーというふうになって、そのところで実は前の会のときにもそうなのですが、「アカデミーというのはそもそもプラトンから」というふうに言いだされた方がおられて、「そうであるならばもっと文化的なものに絞るべきだ」という意見が実は出てきたのです。ところが、ここでいま説明がありましたとおりに、逆に広く総合させるということで、いわゆる言ってみれば我々の生活、衣食住すべてを含んだ、それを文化の総体としてアカデミーというふうにな乗っておりますので、その辺のところのまず認識をしておいていただかないと、「観光が入ってくるのはおかしいじゃないか」とか、「体育が入ってくるのはおかしいじゃないか」ということが、実は前の会のときに出てきましたものから、そのことだけちょっと申し上げておきたいというふうに思います。広く包括的になっているのだという、そういうことで、ひとつ自由にご発言いただければありがたいと思います。はい。

○長尾委員：長尾です。申し訳ないのですが、分科会の会員の所属の問題でございますけれども、私、見えないものですから自分がどういう分科会に入っているかっていうことを、今、付き添いに読ませて、私は視覚障害ですけれども、スポーツ振興の中に入っておりました。このことについて申し上げたいことがあるのですが、ここで申し上げたら、一事不再議だからいけませんでしょうか。

○山崎会長：いや、どうぞとにかくご発言してみてください。

○長尾委員：私、身体障害者関係の団体の代表でまいりました。それで中には視覚障害、聴覚障害、それから肢体不自由と申しまして手足の不自由の者、そういうものの団体なのですね。それで、スポーツ振興と申しましても確かにパラリンピックといったようなものはございます。しかし、それをやる者というのはかなり狭まってきてしまうのですね。しかも文京区の中でパラリンピックに出られる人なんていうのは1名か2名か、非常に少ないのですね。しかもそれが若者が多いわけです。で、若者に関しては特殊教育の学校がございまして、例えば盲学校とか、聾学校とか、あるいは養護学校といったような、そういう学校の学生がパラリンピックに出ることが多いのですね。そういう意味から申しまして、区民の中での障害者っていうのは大人の者は、あるいは老人がだいたい60パーセントなのですね。そういうことで私、出てまいりますと、スポーツ振興のところで私の活躍っていいでしょうか、やる仕事、あるいは意見を述べる領域が非常に狭まってまいります。で、どっちかと言えば、芸術なり、あるいはその他のいわゆる文化的な面のほうが意見を申し上げやすいと思っておりますけれども、そうしたことから考えますと不適當な所属ではないかと考えました。以上です。

○山崎会長：ありがとうございます。これは会長として行政のほうともう一度相談させてください。これはやはりいろんな障害を抱えている人たちがどういうふうにしたら一番その団体の中でご意見が活かされるかということ、もう一度考え直さないといけないだろうと。会長としてもそういう配慮が足らなかったということをお詫びしながら、もう一度行政と協議をさせていただきます。

○長尾委員：よろしくお願いたします。

○山崎会長：他にどうぞ、自由に。

○佐藤委員：佐藤成臣です。どうぞよろしくお願いたします。この時間帯はちょっと先生にお聞きし

たいのですけれども、新たな計画策定についての考え方をまとめていくのか、それとも過去の計画策定について反省をするのか、ちょっと意味付けはまだ分からないのですが。一応それを無視してお話させていただくと、過去のを振り返ってみると、生涯学習についてはある程度人づくりであるとか、会議体できて事業もできたというところなのですが、他の分野、例えば文化・芸術であるとか国際という、会議しかもっていなかったというような印象があります。ですので、今後のビジョン策定をするときには会議をもつ以外に実行ができるような計画を立てるのか、それとも過去の会議を引きずりながら今度の新しい策定ではその会議の結果をみながらステップして、計画を立てていくのかということとどっちを目指しているのかなというものが、もし他の方からもお伺いできるのであればお願いしたいと思います。

○山崎会長：私自身は、あんまり、こうとていうふうに方向付けをあんまり考えていないんですね。とにかく、今までやってこられて、そして各団体から出ている方々はそれに関わってこられているはずですよ。何人か今までここで顔をみますと、前に私もお会いした人たちがいますので。そういうものを踏まえて、今佐藤委員が言われたように実際に会議だけで終わってしまったとか、具体的になかなか、例えば資格を取ったとしてもそれが活かす場がないとか、いろんなことがあるのだらうと思うんですね。とにかくこれだけの団体ですから、一旦自由に発言をなさっていただいて、あとで少し交通整理をして、できるだけ本当は過去を踏まえながら未来へというふうに切り開いていければ一番理想的だろうと思っています。

○長尾委員：長尾です。生涯学習という観点から申しますと、パソコンの教室ですけれども、他の区でもあるんですね。ところが、それを言うとおかしいんですけど、お値段の問題でも実は文京区、高いらしいんですね。それで、他の周辺の豊島区とか、そういう周辺のほうが安くていいという話がありました。それは、近いほど本当はいいんですね。ですから、文京区民はやっぱり文京区でそういうことができたほうがいいと思うんですけども、やはり今、不景気の状態ですから、なおさら安いところへ行きたがってしまうんですね。そうすると集まりにくいと。そうすると、非常に少ない人数でその恩恵を被らなきゃなんないという、なんかちょっと矛盾を感じることがございます。まずパソコンの問題ではそんなことではございました。それから、過去の問題としましては、いろいろな音楽の授業がございました。例えば、今年はリコーダーの講座がございました。これは大変によかったと思うんですけども、しかしまだPRが足りないといいたいでしょうか。私、講座に出たのですけれども、集まりの生徒数といいたいでしょうか、少ないんですね。それで予定の人数よりも少ないというようなことがあって、なんかもう少しPRを一回だけのPRじゃなくて何回かPRするといったようなことも考えなきゃいけないのではないかと、というようなことを感じておりました。また意見が、他に思い出しましたら申し上げます。以上。

○山崎会長：はい、ありがとうございました。他にございましょうか。少し自由に。はい、どうぞ。

○奥田委員：観光財団の奥田でございます。すみません、質問なのですが、14ページのところで文京アカデミー構想の説明を、生涯学習推進基本構想というものをテリトリーを広げて、文京アカデミー構想の下にスポーツだとか、伝統文化だとかを盛り込んで今までやってきたというご説明でしたよね。それで、今度のこの推進協議会の要綱を見ると、第1条で文京アカデミー構想の効果的な推進を図るためって書いてあるのですが、文京アカデミー構想は17年に作られたもので、この17年に作られたアカデミー構想の具体的な行政計画というのを14ページの下のような分野に分けて、それぞれ構築していくということなのか。それとも14ページ見ると、推進計画の上に基本構想というのがかぶっているのですが、文京アカデミー構想に変わるものとして文京区基本構想というのを打ち立てて、その下で5つの分野でもって検討していこうということなのか。その位置づけがちょっとよく分からなかったの、教えていただきたいのですが。

○山崎会長：では、事務局の方から。

○毛利課長：お手元の資料第7号の現行の体制と今後の体制の比較図をご覧ください。現行の体制ですと、文京区の基本構想がございまして、その横に生涯学習の基本構想とか、アカデミー構想とか、生涯学習推進計画とか、なかなか位置づけが難しい形でぶら下がっている形で表現されています。これを一本化して基本的には文京区基本構想がトップになります。新しい今後の体制では、従来からもそうですが、それを分かりやすくその下に例えば今まであった生涯学習推進計画、文京アカデミー構想、それから生涯学習基本構想をまとめて一つの文京区アカデミー推進計画という形に一本化して、基本構想のひとつの補助計画という形で基本構想の下位に位置づけ、基本構想と整合性をもつというすっきりさせた体制に変更します。これを今後の体制ということで、計画を策定していくということです。

○奥田委員：文京区基本構想というのはいつできたのですか。

○小野澤課長：文京区基本構想というのは、不定期といえば不定期なのです。平成13年に現在の基本構想というのが作られて、今もちろん生きています。冒頭ちょっと私、ご挨拶の中で触れさせていただいたのですが、文京区の基本構想は現在策定中でございます。来年の6月を目途に今作っています。もう少し分かりやすく言いますと、基本構想というのは、文京区のすべての政策について網羅した計画を地方自治法で各自自治体が必ず定めなくてはいけないという基本計画なのです。ですから、高齢者の問題、子育ての問題、すべての行政に関わる分野を、文京区の10年後どうあるべきかということ、会議体を設置しまして、これも多くの区民の方にご参加いただいて、今、議論をして計画を策定しています。これがすべての区の上位計画になるものですから、これから各個別の計画が作られていくという意味で、資料にございますとおり今後の体制というような形になるのだと。要するに非常にスリム、スマートにというか、アカデミー推進計画というものにまとめあげた形で、スムーズな運営体制にしようということです。ですから、上半分のところで基本構想が左側から矢印が下りてきているのですが、実際はちょっと正しくないのかなと。これも真ん中に一番上のところに基本構想があって、それが生涯学習推進基本構想にぶつかるというのが、正しいのかもしれない。

○山崎会長：いいでしょうか。

○奥田委員：そうすると、文京区基本構想がどういうふうに検討されているのかっていうことを承知しながら私ども委員は議論した方がいいのですか。それとも、「これは今の段階では知らないよ」という形で勝手にやればいいんですか。

○小野澤課長：今、実は他の個別計画も策定中のものはたくさんあります。例えばまちづくりの都市マスタープランとか、それから子どもたちのための子育て支援計画。これについては今同時並行でお互いに情報交換しながら整合性をとり進めています。ただ、今回のアカデミーの場合には基本構想のほうが若干先に出来上がるという時期に今スタートを切っていますので、私どものほうで今日の会議の大きな動きはとらえながら、基本構想と矛盾しないようにはしていきたいと思っています。基本構想そのものは今回みたいな個別の事項をあまり定めていません。文京区はそれこそ先ほどフレーズが出ましたけど、「まるごとキャンパス」にしていくのだとか、文化的には昔よく「緑豊かで何々のまち」とかというような言い方をしていましたけれども、「文の京」という言葉で今包括的な意思表示をしています。要するに、非常に大きな政策、目標等を立てるのが基本構想ですので、今回の議論では、それとは大きく矛盾することはまずないだろうと。ただ、あった場合には整合性をとりながら、私、そのために今回は呼ばれていると思っていますので、基本構想と大きくずれた場合については、「こういったことでちょっと大きな方向性とは違いますよ」というところを、もしかしたらお話をする場面もあろうかというふうに思っております。

○毛利課長：ちょっとよろしいですか。お手元の資料の中に、新たなる基本構想の骨子ということで、現在策定中なのですが、粗々のたたき台的な基本構想の骨子を参考につけております。基本構想の策定も睨みながら、整合性をとるということで、今回参考にしていただき、今後アカデミー推進計画を進め

ていくということになります。

○山崎会長：私がいうと変なのですけども、質問者の言い方が一番最もなんですね。本当は往復しないと具合が悪いのですが、たまたま行政が間へ入っているからその役目はしてくれるのだろうと思うのです。本当ならば言うとお藪蛇になるのですけど、会長、副会長が本当はその基本計画の中に入り込んでいて、意見がこの代表として言えないと本当は意味がないのだろうと思うのです。そこまでいなくても、とにかく片方は大きな憲法みたいなものだから筋だけで出てきます。それで、我々の方はもう少し具体的にという形で、そんなにおかしくはならないだろうというふうには思っています。そのために行政が間へ入っているのだろう、というふうには思っています。ただ、今説明がありましたとおりに、今まではとにかく分かりにくいのですよ。とにかく文京アカデミーと言ったり、アカデミー文京と言ったり、とにかく参るのです。さすがに今度は行政のほうも少し横にきちんとならして、きちんと計画の概念図を引き直したというところで、分らないやすくはなっているだろうと。ですから、あとはもう中身の問題として私たちがどういう提言をしていけるのかということにかかってくるのではないかと。今までいろんなお仕事に関わってきた経験で、ご意見をとにかく言っていたきたいと。とくに例えば先ほど障害者団体委員の方が言われたような、その視点というのは、例えば私が十分受け止めていなかったということがあるわけです。こういうところに出てきて初めて分かったということになるのだろうと思うのですね。ですから、これまでの経験を踏まえて、とにかくご意見を発言いただきたい。はい。

○久松委員：久松です。今の新たなる基本構想骨子について一つだけ確認の質問させてください。24ページに「交流」というところがありまして、私の質問は今回の文京区のアカデミー推進計画策定における「国際」というのと「交流」というのが対応しているかということです。

○小野澤課長：実はこの骨子というものでございますけど、まさしく今、折り返しの中間時点のもので。これは、ちゃんとした形に作るために、ワークショップを今 20 回ほど開催し、すべての広い意見をこれに全部照らし合わせながら精査して策定していくのです。当然、ここでいうところの「交流」というのは、今先生がおっしゃったような広い意味での国際交流を含んだ形で視野としては入っているということでございます。ですから、先ほど整合性というものはあるのだ、例えば今日のこの場でいろんなご意見が出れば、当然そういったものも私のほうでは持ち帰らせていただいて、今非常に広いところから意見を聴取していますので、そういったものにも当然織り込んでいくというような形になってようかと思っております。

○久松委員：久松です。ありがとうございます。他の分野のところはその平仄（ひょうそく）が合っているというか、生涯学習、スポーツ振興、文化、芸術と文化振興とは若干違うかもしれませんが。それなので、対応として我々の分科会としては、まずはイメージ、その中でいろんな議論を活発にしていきたいと思っておりますけれども、基本的にこれを出発点というような形で考えてよろしいかということをお聞きしたかったわけです。

○山崎会長：ベースとして、分科会で十分練ってくださっていいのではないかと思いますね。逆に、分科会から提言されていってもいいだろうと。今、小野澤さんのほうからもそれは受け止めるのだと、言っていますから、逆に整合性をむしろこちらで作りだしていくというぐらいのことでいいのだろうと思います。どうぞ。

○和田委員：文高連の和田でございます。もう各論に入ってしまうのですが、ただ質問したいと思うのです。いろいろ今まで何回も策定をやってきましたよね。その中で高齢者団体との関わりはどのように行われてきたのか。それが例えば具体的に高齢者の団体のいろいろな行動の中に、行事の中にどれだけ入ってきたのかということをお聞きしたいなど。私なりにこういうことに入ったのではないかと。思うのですが、それも踏まえてお答えしていただきたいと思うのです。今ある文京区高齢者団体、文高連と略していますが、その行事は一つは自分たちの文高連だけでやっているものと、それから区から委託

を受けてやっているもの、それから文社協から一斉にやっているものがあるわけですね。それとはまた別に各クラブ単位でやっているものがあります。区からある程度委託されてやっているものには、この11月までやっていたシビックセンターの4階と1階で展示会をやっています。作品展です。それは区の委託を受けて、区が主催で行っています。だから、それも一つの文化・芸術の分野に入ると思うのですが、そういうものがあります。それから、いきいきシニアの集いのほかに、体力測定会というのがあります。これも高齢者の体力が現時点でどうなのだろうかということで、教育の森の体育館で区が主催で行っていただいています。これはどちらかというとスポーツ関係になります。それとは別に文社協関係は区民センターを借りて芸能大会を行っています。これは各地区単位に、警察署を単位に地区が4つに分かれています、その地区単位に行っています。これも、一応文化に入ると思うのです。それで区から補助があります。もう一つは歩け歩け大会というのがありまして、これは全員でスポーツを少し行ったり、あるいは近所を歩いたりということで、これも年1回行っているわけです。それと緑に親しむ集いといいまして、各地区単位に郊外にハイキングに行きます。これも文社協からの補助が出ているわけです。だから、そういう高齢者の生涯学習も含むのですが、そういう行事との関わりが、こういう策定の中でどういうふうに入っていたかということをお聞きしたいと思うのです。

○毛利課長：質問の高齢者関係の事業なのですが、今和田委員がおっしゃったとおり、分野別で、生涯学習、スポーツ振興、文化・芸術、もう少し広がるかも分からないのですが、そういったものが現実にあります。そういった事業を今後はアカデミー推進計画の中でどういう形で、例えば事業を並べていくのか、そうじゃなくて考え方を示していくのか、というこれからの方向性を議論していただきたいと思っております。それから、その担い手となるのが区なのか、例えば高齢者……文高連に委託するのとか、そういう担い手についても必ずしも区が全部やるという今時代ではなくて、自主的な組織がやったり、委託したりいろいろな考え方があり、担い手もまた検討する余地があります。そういったことを含めて、今後はみなさんと議論していきたいと思っております。

○野口委員：よろしいでしょうか。野口でございます。先ほど会長からこの会議の中に観光という分野を入れることに、過去、議論があったというふうにお聞きしたので少し緊張しています。それを私なりに解釈すると、おそらくアカデミーという名前の中に少しお金のにおいがするというか、ビジネスをしなければならない部分の分野が含まれているからじゃないかというふうに推察しているのです。この基本計画のほうの骨子も拝見しますと、どうしてもやっぱりこういうことを推進していく中で、どうしても経済的なバックボーンというか、もしくはそういった例えば中心市街地の活性化であるとか、商店街の活性化であるとか、そういうこととどうしても観光というものがこういう都市観光の場合はどうしてもリンクしてしまいます。そうするとどうしてもこのアカデミーという名前の下でぶら下がると、どうしても観光といってもどちらかというと文化的な側面の話に終始してしまうかもしれないのです。その場合に、基本構想の下にぶら下がるものとして、他にアカデミー推進計画以外の他の推進計画、例えば商業的なものとか、経済的なものがあるのかどうか。それとの観光の場合はどうしてもリンクしますので、そういう横の連携というのが必要なのかどうか。それから、今回の観光の分科会の中で、そういったビジネスの側面のことも取り扱って大丈夫なのかどうか。その2点をお伺いしたいと思うのです。

○小野課長：観光についてのお尋ねなのですが、観光につきましては観光ビジョンというものを今年の8月に策定しておりまして、皆様のお手元のほうに概要版を、今回お配りさせていただいております。基本的にはこの観光ビジョンをもとにいたしまして、具体的施策について今回、観光のほうではご議論いただきたいと考えております。その中で取り組みの基本施策、最後のページになるのですが、柱といたしまして6つ柱を取り上げていまして、さらにその中に基本施策を出しております。この中ではとくに観光といいますと、やっぱり街歩きの中で食べたり、買ったりというのもメインになってきますので、その辺お金っていうか、活性化というのも重要な要素になります。ここもどのようにしていくかというのは今回ご議論いただきたいと思っている場所でございます。

○徳田部長：アカデミー推進部長の徳田です。先ほどから議論になっているこの基本構想の骨子なので

すが、ページ数が少し飛んでいることから分かるように、一応ここに出ているのは今日の会議、つまり私どもが担当すべきアカデミー推進計画策定のために多分関わってくるであろうと思われる分野だけ出ています。従って、これ以外に例えばあるもの、中小企業の振興にしろ、あるいはそういった経済面の話とか、そういうものはまた別に出ていますので、そういった意味で考えていただければ。これはあくまでも私どもが対象にすべき範囲と今回の基本構想の一部と、こういった形ですよということを今日お示しただけです。

○山崎会長：今、先生が言われた質問の中で、何を議論しちゃいかんということはないだろう、というふうに思うのです。とにかく議論をして、そしてそれがひとつの要するに最終的に区民がいかに快適な生活ができるのかという、そういうことなのだろうと思うのです。ですから、そこには当然お金のことで何だって出てくるはずです。一度とにかく全部出してみても、それでいいのではないかと。例えば先ほど副会長のほうからも出ましたように、例えばITを使って単なる道具じゃなくて、そこにやっぱり文化というようなものを、あるいは当然そういうものを使っていく現実の活動には、やっぱりお金がどうしても必要なことになる。それはそれで区のほうが予算措置をしていってくだされば生活は快適になる。だから、どんどんいろんなことを言っていていいのではないかとこのように思いますので、むしろいろんな意見を出してくださるほうがいいだろうというふうに思っています。はい、どうぞ。

○奥田委員：これも質問なのですが、今の質問に関連しまして、我々はそれぞれ5つの分科会で来年の7月までに一定の成果物をまとめて協議会のほうに報告をするよと言ったときの、その成果物なのですけれど。何の制約もなく自由自在に議論していいのか、それとも行政計画っていうことであれば、一定の予算なり時間的な制限の中で何をここまでやるよっていう形で具体的に作っていかなくちゃいけないのか。求められているものがどういうことなのかというのは、交通整理していただいたほうがいいのでは。

○山崎会長：はい。今日はですから先ほども言いましたとおり、とにかく今日は何でも出してもらいたい。おそらく2回目になればこれはもう明らかにひとつの議論の方向をきちんと絞らなくちゃいかんだろうというふうに思います。今日はとにかく初めての顔合わせということもありますので、皆様方のそれぞれの思いをとにかく語っていただきたいというのが、今日の目的なのです。確かに今質問が出ましたとおりに答申しなきゃならない時間的な制約もありますし、会議の日程もありますし、十分ではないかもしれませんが、今とにかく今日はいろんな意見を出して、2度目のところでひとつ方向付けをしていこうと。しかも各分科会には座長がいますから、いま自由に出て座長のところでおそらく当然ある程度のもつめを付けざるを得なくなってきました。そういうことで、ひとつご理解いただければありがたいと思います。どうぞ。

○上田委員：やっとな私の出番になりそうで、商店街から選出された委員であります。商店街というのは町会も含めて町の核を形成していると我々は自負しております。文化財に近いのではないかなと思いついて、町会も商店街も、お祭りにしても観光にしても担い手は我々です。私たちがいなければ観光も、文化も歴史もこれから作っていくことは不可能だというふうな自負をしながら営業しているわけです。そこに商業というものが入ってきてお金のやりとりが当然出てきますし、人がたくさん来ればその地元の商店街も儲かるし、例えば文京区でいうと、谷根千だとか、この間行いました樋口一葉だとか、文化的な問題の中にも我々商店街は絡んできているわけです。そのことを考えながらこれから進めていきたいと思いついて、まとめのことは全然分かりません。とりあえず私の考えることだけをこれからはしゃべっていきないうふうに思っております。分科会ってというのは次から始まるのでしょうか。

○毛利課長：後ほどまたスケジュールでお話ししますが、まずはこの協議会を2回ほど開きまして、おそらく来年になりますね。来年の2月ぐらいから分科会がスタートしてくるかなと思っております。詳細はまたご説明します。

○**上田委員**：総論をもう一回やるわけですか。

○**毛利課長**：そうです。第2回目の協議会を22年の1月にもう一度やります。それから分科会に移行していくということです。

○**佐藤委員**：佐藤成臣です。よろしくお願いします。いくつかございますので、まとめてば一つとさせていただきます。まずは各座長の方をお願いをしたいのですが、推進計画を策定する上で、私が過去何年かお付き合いしたのですが、できたけれども実行する場所がない、つまり拠点がまったく足りないというのがひとつ文京の中で弱点でございます。ですので、その辺は小野澤課長も含めてお話をしたいのですが、拠点をどういうふうに作っていくとか、拠点についての考え方というものも、今回の計画にはちょっと落ちていますので、そこを足していただきたいということがまず一点でございます。それから今観光っていうか商店街のお話をいただいたのですが、いくつかのやっぱり参加団体さんっていうか文化施設についてもお願いしたのですが、お断りをするというような拠点っていうか、商店がございまして、それは明らかにコミュニティーの形成が足りていないだろうなというのがありますので、分科会の中でやはり地域とのコミュニティーの形成っていうのもやはり加えこんでいく必要があるのではないかな、ということを感じます。それから、この分科会の中でも人材育成をしていく分科会と、人材活用をしていく分科会のこの2つを分けていく必要があるのではないかなと思います。つまり人材育成がまだ完全にできていないような国際であるとか、観光のところについては育成を軸としたような形での計画立て、生涯学習とか文化については活用についての計画立てをしていくような形の力点を入れていくということが重要ではないかなと思います。最後に、ここのところに書かれてある基本構想の骨子の中に2つほどあるのですが、生涯学習は図書館の活用というものがありました。私はこれびっくりしたのですが、なるほど図書館も今後考えていかなければいけないのかなと思いましたので、ここについては生涯学習の分科会ですのでしっかり検討していきたいと思います。もう一つ国際の部分、交流の部分なのですが、交流の部分は今までみていると、国際交流だったのですが、ここを見ると、区民や外国人などが相手を相互の理解を深める機会の創出が不可欠ですと書いてあります。これは多文化共生のことをうたっていると思います。つまり、国際につきましても交流だけではなく多文化共生についてもひとつ検討していくような軸が必要なんじゃないのかなということを感じました。以上です。

○**山崎会長**：ありがとうございました。かなり佐藤委員からは具体的な提言がなされておりますので、これは次回からの検討の方向、あるいは問題点がかなり浮き彫りになってきているだろうと思います。どうぞそういう例にならって、今までのみなさん方の参加しているところで気のついたところでご発言いただけるといいのですが。はい、どうぞ。

○**市川委員**：区民選出の委員の市川でございます。昨日までかかって行っていました文京区の基本構想ワークショップというのがあると思うのですが、ワークショップの結果につきましては、我々はどうな意見が出たとか、どういうふうになったとかというコメント集というのはいいただけるのでしょうか。

○**小野澤課長**：基本構想については、ワークショップに限らず、すべての、こちらと同じように全文の会議録も作りますし、あとワークショップの個々についてもみなさんのご意見を今シート化していますけれども、それも全部まとめたものをホームページ等では公開していきます。いずれにしても、もちろんご参加していただく人に対しても、他の区民の方にも全部開示するという形で資料をまとめていきたいと思っております。

○**市川委員**：ありがとうございます。そうすると、この場ではオープンにならないということなのでしょうか。

○**小野澤課長**：一定のやはり時間が要するものですから、今たまたまこの期間に会議をやっているの

すけれども、会議も先々週のワークショップの資料までを今回まとめて会議にもご報告するというような形行っています。いずれにしても直近のものがどんどん終わっていきますと、それを付け足した形で最新のものとしてリニューアルしてご覧いただけるような状況にはいつもしていきたいと思っております。

○市川委員：分かりました。いつ頃になりますでしょうか。

○小野澤課長：昨日終わっていますので、まとめの作業をやりまして、少なくとも今までの例ですと2週間後ぐらいにはある程度お出しをできるという状態にもっていかれていると思っております。

○市川委員：ありがとうございます。

○山崎会長：ご意見ございましょうか。もう一人、二人お聞きしたいと思っております。はい、どうぞ。

○伊藤委員：私、なぜか国際分科会のほうに入っているのですが、初めて入れていただくわけで、国際関係、要するに多文化を尊重してやっていくのですが、内容としてはやっぱりスポーツとか、生涯学習関係の文化的なものにどうして関わっていくと思うのですね。異文化の方をもう少し取り入れていこうとか、交流しようと考えになったときに、あくまでも異文化という形で国際分科会のほうでは進めていくという考え方でいいのでしょうか。どうしても噛み合っちゃうところができるだろうと思います。

○徳田部長：アカデミー推進部長の徳田です。今の意見はおっしゃるとおりなのです。たまたま5つの分科会というふうに分けているのですが、これはあくまでも議論を進めていくためにひとつの切り口として設定したものです。ところが実際に議論が進んでいきますと、今お話あったように場合によっては全部に絡んでくる場合があります。とくに観光と国際にしてもそうです。それが実はこの協議会という全体組織を構えているのです。だから、まずはいろいろなテーマをまず、何でも最初からいいですよとなると、おそらく收拾がつかなくなると思うのです。何しろ私どもが扱っている分野というのは、我々内部では、これは適切かどうか抜きにして、いわゆる本業以外の部分、言ってみれば余暇といいますか、それを全部扱っているのが私どもの部なのです。つまり本業、例えば学校教育だって学校に行っている時間は違いますが、ただ放課後から実は私どもが子どもたちの相手もしています。つまり私どもが扱っているのは全部なのです。それを一度に議論するとこれはもう收拾つかない。それで、まず切り口を5つ設定させていただきました。それでその中で議論を進めていくうえで、場合によればこれは実際するかどうかは別として「どこかとどこかの分科会が、まず、これを先にそれぞれで議論したほうがいいですね。」となるかもしれません。場合によれば「これ全体としてここでやりましょう」ということになると思います。まずはそれぞれの分野の切り口から、切り口の中で十分議論していただければというように思います。

○山崎会長：あとはございましょうか。先生、ひとつ気が付いたところで何かありましたら。

○水越副会長：気がついたというよりはコメントなのですが、最初に山崎会長のほうから「アカデミーが扱うものは文化の総体なのだ」というふうに、「生活のすべて、表現等々のすべてなのだ、その総体なのだ」という話がありました。それはまったく賛成で、若干学識経験者っぽいことを言うとする、いまの文化理論ではまったくそういうふうに言うわけです。ですから、高尚なことだけとか、何かだけということではなくて、子どもがクレヨンで絵を描くようなことから、今日の夜に切干大根にどれぐらいみりんを入れるかということの親から子への伝承まで、やはり文化なわけです。そういうものが相互に関連して全体となって文京区の文化の森みたいなものができればいいのだと思いますので、かなりクロスオーバーするところを交通整理していただくことになると思います。個人的には例えば豊島区とか港区がどんな計画を出しているのか、少し見てみたいという感じがします。そういうものを踏まえな

が先ほどご意見あったように実行性のある、いわゆるプログラムをしっかりとっていくと。ただその基本は先生がおっしゃったように、文化というものをそういう形でとらえるということが大事で、アカデミーというとなんかすごくお高いところにとまって「学問でござい」と言っているのは、もう 30 年古いという感じがしますので、ぜひみなさんと一緒に考えていけるベースを考えたいと思います。

○山崎会長：ありがとうございました。そういうことを踏まえてこれから議論を進めていくにあたって、いろいろ調査をしていきます。その基礎調査を実施するにあたって概要の説明を事務局のほうにお願いします。

○毛利課長：それでは、次のお手元の資料で、アカデミー推進計画策定に関する基礎調査ということで、資料番号の第 8 号、15 ページをお開きください。こちらがアカデミー推進計画における実態調査ということで今考えております。イメージ的なものなのですが、今回の調査の目的としまして、お話にありました区民の生涯学習等々 5 分野に対する区民の意識、活動の実態、要望といったものを把握したいと考えています。それによりまして計画策定のための基礎資料にしたいということで調査を考えております。調査の具体的仕様なのですが、区内に在住する満 20 歳以上の男女、約 2,000 サンプルを抽出しまして、無作為抽出し、郵送により行いたいと思っております。期間は来年 1 月中旬から下旬の間に行いたい。次に調査項目のイメージなのですが、以下に表のほうに示されているように、実態調査の考え方としまして、例えば 1 の回答者についてですが、これも基本的属性という形でいわゆる性別、年齢、家族構成、職業等を聞く形になっております。それから、2 番目としまして文京区の魅力について、文京区のイメージということで「あなたが感じる文京区のイメージは」ということを、こちらの調査項目はイメージということで示しています。まだ細かくはなっていないのですが、例えば文京区の好きなところとか、好きでないところとか、そういったものをお聞きしたいと思っております。それから、3 としましてアカデミー活動へのかかわりについてということで、調査の対象の方がこの 1 年間で鑑賞した、参加したイベント等、1 年間で利用したことのある文化施設、そういったものの調査をしていきたいと思っております。4 としまして、これは分野ごとにそれぞれ分かります。例えば文化・芸術分野ですと、文化・芸術に関係する活動に対する参加の有無ということで、なるべく分かりやすい形で、はい・いいえとか、回答しやすい方法で答えてもらいたいと思っております。文化・芸術の活動に関する行いやすい時間帯や、場所、参加したいと思う分野、テーマ等々をお聞きしたいと思っております。それと同じように生涯学習においても同じような切り口で取り組みの有無とか、活動ができる時間帯等々をお聞きしたいと思っております。

次ページ、16 ページにいきまして、今度はスポーツ関係の分野でも同じようにスポーツに関する取り組みの有無と、時間帯等をお聞きしたいと思っております。それから 4-4 としまして国際交流関係では海外渡航の経験とか、場所、滞在期間や、地域における外国人との交流の状況、それから外国人観光客が訪れたことに対するそれぞれの意見、そういったものをお聞きしたいと思っております。また、観光関係ですと、日頃の観光の行動について、行き先、目的、期間、そういったものをお聞きしたいと思っております。5 番目としましては、文京区の考えるアカデミーの考え方をちょっと説明したうえで、文京区のアカデミーに対するイメージ、それに対するご意見をお聞きしたいと思っております。それから 6 番目としましては、ちょっと変わったところでライフスタイル等についてもお聞きしたいと思っております。最後にこの推進計画に対する自由意見をお聞きしたいと思っております。こういった調査項目のイメージを今回示しまして、これに委員の方のご意見いただき、調査項目を固めていきたいというふうになっております。以上です。

○山崎会長：今ご説明をいただきました。委員の方にも、ご意見シートというのがありますので、他人事ではなさそうです。今資料の説明をいただきましたが、説明についてひとつ質疑を。

○長尾委員：長尾です。2,000 件のサンプリングはどうやりますか。

○毛利課長：これ、年齢別、性別で、段階的に選んでいきます。サンプリングは、住民基本台帳から抽

出すという無作為の形です。

○長尾委員：調査はどこへ出しますか。

○毛利課長：今回私どもで、先ほどご紹介しました富士通総研にこの調査委託も含んで願する予定で
ございます。

○山崎会長：いいでしょうか。今のご質問に対しては、区民のアカデミーに対する基礎調査をコンサル
タントをお願いをして、まとめたところで分析資料が出てきます。その資料をもとにしてまた詰めてい
く、あるいは検討していくということになるだろうというふうに思います。

○長尾委員：サンプリングの仕方によって意見が偏る可能性があるのですよね。それで、富士通総研さ
んはどうお考えなのでしょう。

○毛利課長：すみません、説明不足で。層化無作為抽出ということで偏らない形で行います。

○長尾委員：無作為ですと、例えば電話でやると、文章をあるグループに配布するという方法によって
随分違うのですよね。私も随分やってきましたけれども、そのやり方によって違うものだから、そこを
伺っているのです。

○徳田委員：アカデミー推進部長です。まず抽出については無作為抽出法といいまして、これは区の世
論調査とか、その他の区の調査で実際に通常行う抽出の方法になります。そこで出たサンプルに対して
今回は郵送、郵便ですね、郵便物で調査をすることになります。

○長尾委員：そうしますと、出すのは2,000件出すのではなくて、もっとたくさん、結果が2,000件に
なるようにして出すわけですか。

○徳田委員：サンプルの抽出数は2,000、従って2,000件を郵送します。

○水越副会長：この席にいますけど、少しちょっと質問があります。まず、今ご質問がありました
けれど、2,000サンプルっていうのは統計的にはまったく十分過ぎるくらい十分だと思います。普通我々
の同僚が例えば「全国でテレビであるとか新聞をどのくらい見えていますか」みたいなことを聞くときに、
全国調査で2,000というような数であります。全然違う話ですけど、関東広域圏で視聴率調査をや
るときに、関東広域圏500世帯だけでやります。500で3,000万人いるところ大丈夫かと思いますが、
それで大丈夫だということですので、2,000という数が少なくはないだろうと思います。なんか事業仕
分けの話であれなのですけど、逆に僕はちょっと2,000というのは多いのではないかっていう気がしま
す。というのが一点と、それからもうひとつはちょっと質問が実態を把握しようということになってい
るのですけれども、おそらくここにいらっしゃる団体関係の方、あるいはもうこういう会に何度も参加
されている関係者の方、一番の悩みは、例えば「PTAの話をやっても来てくれる人はこれだけなので、
もっと本当は多くの人に入ってほしい」とか、「本来なら絵を描く人がたくさんいるはずなのに、来て
くれるのはこれだけだ」と、そういうところで大事なものは区民の潜在的なものをどう浮かび上がらせ
るかっていうことなんじゃないかなと思うのですね。ですから、今、何でしょうか、例えば「1年間に何
回鑑賞したことがあるか」っていうと、それは「若い人たちの間ではほとんど行けない」っていうこと
だろうけれども、「こういうことがあればどういうふうにしたいか」、ということ聞いてみるっていう
ようなことは多分大事でしょうし。くだらないっておっしゃるかもしれませんが例えば年に1回出す年
賀状、「あなたは版画でやっているのですか」と。あるいは「何かそこに自分が創意工夫をしたもので
年賀状を作っているのか」。それともそうじゃなくて、「何か買ってきたものでやっていんのか」ってい
うような話は、実は版画とか絵を描くとかということの潜在的なものをチェックすることになる部分が

あると思っていて。「今どのぐらい使っているか」というと「非常に少ない」、あるいは「これはダメだ」みたいなことになると思うのですけれども、「潜在的にこんなことがあるよ」ということを、先ほどの話戻るのでですけど、文化の総体から拾い上げるっていうようなことをやってみる必要があるのではないかなというふうに思います。今後半で申し上げたのは質問項目の問題で、前半はサンプルの問題なのですけれども、例えば「一駅、春日から白山まで歩いていますよ」という話が実は潜在的にはスポーツの話につながるはずで、そういうような意味で、明示的ではない事柄、はっきりそこにあるということではない氷山の一角をどう広げるかっていうことが大事だと思うのです。そうすると「このところをいろんな分野に関して聞く」というような、何か項目立てというものの努力がちょっと必要かなど。もちろん1月中旬ですので、もう時間がございませんから、基本骨格はある常識的な範囲でやるにしても、少しそういうものやっておくと今後のためになるのではないかという感じはしました。

○毛利課長：これから調査項目については決定してまいりますので、今日聞いたみなさんの意見、また、戻りましてご意見シート等にご記入いただきましたものを取り込んでいきたいと思っています。

○水越副会長：言い忘れたことなのですが、先ほど質問があったワークショップというのは、少人数でのディスカッションミーティングみたいなことをおっしゃっているわけですね。そうすると、やっぱりその声が非常に重要で、アンケートでは出てこないものを人の意見で拾ってくるということが必要です。アンケートで出てくることと、ワークショップのものを両方見合わせながら、僕らは潜在的なものをどうつまみ上げていくか、すくい上げていくかということを考えたい。

○市川委員：市川でございます。このサンプル調査の分析結果をというものは、いつ出るのでしょうか。

○毛利課長：実態調査は後ほどスケジュールでお話ししますのですが、17ページを見ていただけますか。最後のページのスケジュールでございます。こちらに実態調査の項目があります。実態調査により課題を把握ということで、調査するのは1月中下旬です。調査しまして結果が3月中旬にはまとまる。第3回協議会で報告できるような状態を考えております。

○市川委員：第3回の協議会には間に合うということですね。ありがとうございます。

○山崎会長：先ほど水越先生の言われた項目ですね。まだ間に合うのならば、そのところへ若干工夫をしてみてください。

○佐藤委員：佐藤です。手短かに言います。水越先生のお話を聞いて非常に納得しました。文化・芸術というのはゼロから1に進めるのは難しいのですけれども、5から7に進めていくというのは比較的簡単、つまり定性分析もいいのですが、定量的分析というのをされたほうが面白いかなと思います。その方がより活用度が上がっていくみたいなことあると思いますので。シートの方に書いておきましたので、そういうのを加えていただくとありがたいなと思います。

○山崎会長：他にご意見ございましょうか。ご意見のある方。はい、どうぞ。

○黒木委員：黒木です。私の個人の興味かもしれませんが、このアンケートをとるにあたって、文京区外を取るという考えはないでしょうか。区民であることは重要なのですけれども、同時に都民なのです。生活者として日本人であり、グローバルの中にいるのです。そんなことをどうしても考えるのです。いつの時期かでも結構ですけど、そういうアンケートもとったらどうでしょうということ。意見です。

○山崎会長：はい、ありがとうございます。他にございましょうか。それではだいぶ時間も押しておりますので、一応、今出た意見を十分事務局と詰めますので、一任いただければと思います。なお委員の

皆様もこのご意見シートっていうのを書くようになっておりますから、そこに十分お書きいただければありがたいと思います。次に今後の計画について予定について、事務局からお願いします。

○毛利課長：それでは今後のスケジュールを、資料の17ページ、横版の資料、第9号をご覧ください。こちらが今後のスケジュールになっております。スケジュールの予定ということで、今回の協議会が11月の第1回ということで、このあと第2回を1月の下旬に想定しております。3回、4回、5回、6回と、概ねは最終的に6回程度の協議会の開催を予定しております。それから分科会についてですけども、分科会はこちらにご案内の通り、21年の、2回の協議会が終わったあとに、2月下旬ごろから分科会の開催をお願いしたいと思っています。回数については分科会にお任せします。数回程度になるかと思えます。分科会によって温度差があるかなとは思いますが。それから次回にやる内容なのですが、第2回の協議会ではこちらの現行関係計画についての現状の把握という形で、現状の把握、基本構想の骨子に基づく新しい計画の視点とか、そういったことについて検討を重ねたいと思っています。それから、第3回目は今回の実態調査の結果の報告といたくたりになるかと思われま。そういった形で日程調整を進めていきたいと思っています。それから、下の方に参考までに文京区基本構想の策定のスケジュールもあげております。そういったものも睨みながら今後のスケジュールを展開していきたいと思えます。よろしくお願いたします。以上です。

○山崎会長：スケジュールについて何かご質問ございましょうか。

○武智委員：青少年委員会の武智と申します。分科会の、最初のほうで他の分科会にも出席可能というお話がありましたけれども、分科会の開催日程について他とだぶるようなことはないですか。

○山崎会長：この辺のところはまだ、調整できていないです。

○毛利課長：分科会は座長が中心になりますので、どうしても座長の日程に合わせるような形になりますので、うまく日程が重ならないように調整していきたいと思えます。

○武智委員：そういうことを聞いて、他へ出るかというたとぶん出ないと思えますけど、念のために聞いてみました。

○山崎会長：出られれば一番良いのですが、私たちのスケジュールをまだそこまで詰めておりませんものですから、申し訳ありません。おそらく所属するところで手一杯だろうという感じがあります。最後に、どうしても今日ご意見を言わないと気持ちが悪くて帰れないという、つまり特に区民の代表者の方たちもいらっしゃるわけですから、ひとつ何でもいいです。あと若干5分程度ありますので、どうしてもという方ありましたら、お聞かせいただきたいのですが。はい、どうぞ。

○大石委員：私は都立の障害児学校に長年勤めてきまして、今も卒業生のいろんなスポーツとか、文化活動に関係している仕事をしているのですが、一番難しいのは、先ほども申し上げたように、障害者といってもいろんな種類がありますし、またこういう計画ができたとしてもいろんな障害のために参加しにくいという状況がございます。それでは、障害者だけのスポーツとか、障害者だけの文化活動という非常に狭くなってしまい、本人たちは広く参加したくてもそういう手立てがないというようなことがございます。それから、先ほどのアンケートでも、ほとんど参加できないじゃないかと。アンケートに協力できないのではないかと。特別に聞いてあげれば答えますけれども、紙で来たものには答えられないという場合がございます。それからもう一つ、私は中途障害の人たちの俳句教室をやっているのですが、かなり中途障害の人というのは自分は障害者という自覚がないのです。ただ自分はみんなと一緒にやりたいけれども障害のために非常に難しく、参加したいけれどもなかなか参加できないなというような状況の方が非常に増えています。ですから、そういう方たちも進んで参加できるようなアカデミー構想を作っていただかないと、健常でしかも参加できる人はこういう構想がなくてもどんどんいろ

んな会に参加しているはずなのです。ですから、なかなか参加しにくい条件の人を、できるだけ参加できるような条件をどうしたら作れるかということが、やっぱり区のひとつのサービスじゃないかと思っております。

それから、区の財政状況について、文京の最近の会報を見ますと、このアカデミー構想を含めて1人当たり1万5,478円使われているというふうに出ています。これは区民1人当たりの使い道としては大変大きい額でございます。ところが、19万5,558人の区民がそれを自覚しているかということ、ほとんどの人が初めてこれを見て、「こんなに」と思うのではないか。もちろんアカデミー構想推進の事業のほかに、公会堂、保養所、区民会館の運営等、いろいろ入っているわけです。私が見たいのは、今、事業仕分けを盛んに国でやっていますけれども、区民としてみると、アカデミー構想のいろんな事業にどこにいくら使われているのかという具体的な資料がほしいのです。そうしますと、必ずお金がかかってくる、それは将来切られていく可能性がある。せつかく構想はしても「お金がないからできません」と。今も区の図書館が民間委託にするという、盛んに問題にされておりますけれども、そういった場合でもお金の問題がかかってくる。せつかく構想は立派でもお金が伴わないとできないこともありますし、またお金だけじゃなくて熱意が必要だと思うので、みんなで支えていくというような雰囲気づくりがアカデミー構想には必要だと思います。そういった面も含めて次回もう少し具体的な課題をみんながもって帰って、次の全体会では「こういうことでぜひご意見を」というのをやっていただけるとありがたいと思います。以上でございます。

○山崎会長：どうもありがとうございました。貴重なご意見。それでは時間も来ておりますので本日はこれで閉会にしたいと思いますが、事務局のほうから次回の日程だけちょっと申し上げてください。

○毛利課長：次回、第2回目の日程なのですが、来年1月26日、火曜日、午後6時半から、会場はこの隣の第一委員会室で行います。ご通知は文書でご通知しますので、よろしく願いいたします。

○山崎会長：今日は長時間どうもありがとうございました。これで閉会いたします。

以上